

人として、母として、歯科衛生士として。

”いま“行動しなければと思うんです！

松本 はるみさん

(歯科衛生士・臨床歴7年)

今回紹介するのは、愛知県春日井市の松本はるみさんです。

Goodbye Perioプロジェクト発足当初から、

保育園や市役所で歯周病予防の啓蒙活動をスタート。

現在は同じ地域の仲間と一緒に、

”確実に社会に変化を起こす”ことに挑んでいます。

オーラルケアすることへの意識を変える取り組みは、ときとして遠く険しい道のりに思えます。

それでも信念を貫き、まっすぐに突き進む松本さん。

その原動力は、いつたいどこからくるのでしょうか。





とはいっても、私はひとりで一般の人の意識や行政の認識を変えていくのは無理。まずは自分が率先して動くことで仲間を巻き込んでいこうと考え、長女が通う保育園で歯周病予防の大切さを伝えました。

実際にやつてみて感じましたが、正直、医院内での診療をしながら外でも活動するのはとても大変なこと。関心のない人を振り向かせて歯科医院に導くのは、特に労力がります。それでも活動する意義がある。本気を出さなければいけない。「勇気を持つて一緒にやろうよ!」という気持ちで地道に活動を続け、 스스로が声がけをしていきました。そのおかげか、同じ志を持つ仲間が少しずつ増え、定期的にミーティングを開くことに! それぞれの活動を報告し合ったり、一緒に企画を考えたりと、毎回とても充実しています。私たちは春日井市を変えられる。愛知県を変えられる。そう確信するようになりました。

率先して動けば 仲間が増えていく!

とはいっても、私はひとりで一般の人の意識

や行政の認識を変えていくのは無理。まずは自分が率先して動くことで仲間を巻き込んでいこうと考え、長女が通う保育園で歯周病予防の大切さを伝えました。

“無報酬”だからこそ この活動には意味がある



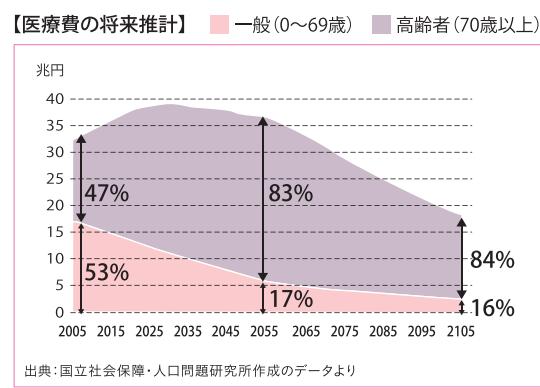
こうした活動のために夜遅くまで準備や勉強をしていて、主人に「ようやくね。お金もらえないんでしょう?」と言われたことがあります。私だって、全然お金が欲しくないと言つたらうそになります。でも、無報酬だからこそ、この活動の意味があると思うんです。

お金のためではなく、歯科衛生士たちが動いている。そんな私たちの本気や真剣さを知つてもらうほうが何倍も人の心に響くし、人を動かすパワーがあるのではないかでしょうか。後々、社会や歯科医師からの信頼感も、大きく変わってくるはずです。

今後も引き続き、医院の外で積極的に活動をして、一般の人の健康観を上げる努力をしたいと思います。そして歯科の受診率を上げ、医療費を削減します。私たちがいま動くことが、子どもたちの明るく幸せな未来につながる心からそう信じています。

Goodbye Perio事務局・鈴木のコメント

プロジェクト発足から3年目。活動を通して関わりを持った友人や知人から、「歯のことなんだけど……」と相談を受けることが増えました。私たちが“歯科衛生士”だということを認識してもらっている。歯を大切にしたいという人が増え始めている。一人ひとりの小さな行動が大きな成果を生んでいると感じられる瞬間です。今年も、全国の歯科衛生士と心を一つにして、立ち止まることなく進んでいきたい。松本さんのお話を聞いて、決意をあらたにしました。



一人ひとりの強い想いと行動力で、日本の未来を変えられます！ メンバー登録は <http://perio.tuftclub.jp> で！

医療費問題の解決が、
子どもたちの幸せな

未来につながる！

こんな状態のままでは、子どもたちに幸せな未来を残せない！ ちゃんとバトンタッチできない！」
数年前、日本の医療費の推移を示すグラフ（左頁）を見て、強い危機感を覚えました。私は自身、歯はもちろん体の病気で苦労している高齢者のお話を臨床で聞いています。こうした人が日本にどれだけ多いかを、あります。『将来、人の世話にならず健康でいたい』「娘たちに迷惑をかけたくない」という想いは、グラフを見ると実感したんです。『将来、人の世話にありと実感したんです。『将来、人の世話にならず健康でいたい』「娘たちに迷惑をかけたくない」という想いは、グラフを見てもっと切実になりましたね。

Goodbye Perioプロジェクトの発足を知ったのは、お母の日近くなときです。私は歯科衛生士として「国民の健康を守る」という使命があります。でも、実際は日々の仕事に追われるばかり。社会に貢献するために行動していくかったとしても、これは歯科衛生士としてだけでなく、人としての生き方に関わること。「ふたりの娘を含め、日本の子どもたちの将来のために行動を起こそう」と心に決めたんです。

Goodbye Perioプロジェクトの発足を知ったのは、お母の日近くなときです。私は歯科衛生士として「国民の健康を守る」いう使命があります。でも、実際は日々の仕事に追われるばかり。社会に貢献するために行動していくかったとしても、これは歯科衛生士としてだけでなく、人としての生き方に関わること。「ふたりの娘を含め、日本の子どもたちの将来のために行動を起こそう」と心に決めたんです。